# 2026年　日本漢方生薬製剤協会会長　年頭ご挨拶

2026年1月16日（金）

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
ご来賓の皆様には、ご多忙の中ご臨席賜り、誠にありがとうございます。

昨年は、年末ぎりぎりまで、OTC類似薬の保険給付に関する議論がありましたが、何とか平穏に心安らかに、新年を迎えさせていただくことができました。日本東洋医学会の田原会長、髙山副会長、砂川常務理事、日本臨床漢方医会の渡辺理事長をはじめとした先生方には、早い段階から「断固反対、漢方はOTC類似薬ではない」とご主張いただき、医系・薬系の国会議員の先生を中心にロビー活動を実施いただきました。そして、自民党・漢方議連の会長である田村憲久先生には、多大なるご尽力を賜りました。これまでどおり漢方の保険診療が継続いただけますことは、国民医療において極めて重要なことであり、関係の皆様方に深く感謝と御礼を申し上げます。

さて、2016年に設立された「国民の健康と医療を担う漢方の将来ビジョン研究会」（以下、漢方の将来ビジョン研究会）による2017年3月に発出された提言書の内容に基づき、当協会では、漢方製剤等の安定供給を通じて健康寿命の延伸など国民の健康と医療に貢献すべく、2018年に「日漢協・漢方将来ビジョン2040」を策定し、次の8つの課題に取り組んでおります。

1. さらなるエビデンス集積と有用性の確立
2. 原料生薬の継続的安定確保と国産生薬生産量の拡大
3. 原料生薬から最終製剤までの品質管理の高度化と製品品質保証の体制強化、および医療用漢方製剤等の安定供給
4. ガイドライン策定に向けた医療用漢方製剤の新剤形開発・効能拡大に関する研究の推進
5. 一般用漢方製剤および生薬製剤の開発推進と情報提供体制の強化
6. コンプライアンス遵守の体制強化と信頼性向上
7. 自然環境の保全・生薬資源の保護など地球環境や生物多様性へ配慮した事業活動の推進と漢方製剤等の国際展開の推進
8. 産官学連携強化とアウトリーチ活動の充実

この「日漢協・漢方将来ビジョン2040」の実現に向け、具体的な実行計画である「第1期5ヵ年アクションプラン」を2021年より遂行してまいりました。この3月に5年の節目を迎えるにあたり、現在、その活動結果の取りまとめを進めています。現時点での注目すべき成果と課題を少しご紹介いたします。

まず、成果については、令和6年度薬価改定において、医療用漢方製剤580品目中、360品目が不採算品再算定の適用を受けた点があげられます。日漢協史上、薬価制度における類例のない画期的な前進であり、関係各位のご努力に敬意を表します。ご尽力いただきました日薬連、中医協、厚生労

働省等の関係機関・団体の皆様に、あらためまして深く感謝申し上げます。

一方、課題としては、国内における生薬生産に関して、国産生薬の生産量を 2030 年までに 2015 年度比で 1.5 倍という目標に向けた活動において、2024 年度の調達量は 1,627t と、2015 年度比で 1.14 倍にとどまっています。2024 年度は 1.20 倍がマイルストーンですので 82t 不足している状況です。生産農家にとって収益性が不十分である点、機械化・省力化の遅れなどの課題はありますが、今後は、国内での調達量と購入会社数の多い「国内主要 8 品目」を中心に解決策を講じ、説明会・相談会や行政担当者との情報交換会を活用してマイルストーン目標の到達を目指してまいります。

さて、2025 年度の漢方の将来ビジョン研究会は、「時代変化・研究会成果を踏まえた提言の再構築」をテーマとして、本年 3 月 2 日に開催されます。

今回は、患者様の視点も組み入れ、保険診療の中で漢方が必要不可欠とされている現状を踏まえた、新たな提言書が発出される予定です。

この提言書の内容を踏まえて、当協会は「第 2 期 5 ヵ年アクションプラン」を策定し、2026 年度以降、新たな課題の解決に取り組んでまいります。

医療用漢方製剤については、継続的な中国産生薬の価格高騰、インフレや円安による資材・副原料、エネルギーコストの上昇、さらには、安定供給のための生産設備や倉庫の建設コストが 2～3 倍に高騰している状況など、経営に深刻な影響を及ぼしかねない厳しい状況が依然として続いています。不採算品再算定を受けていない品目がその対象となるよう、また、過去に不採算品再算定を受けた品目が基礎的医薬品に適用されるよう、引き続き、関係各機関・団体へ働きかけてまいります。

一般用漢方製剤・生薬製剤を活用したセルフメディケーションの推進については、2017年から時限的に始まったセルフメディケーション税制が、スイッチOTC医薬品については恒久化、それ以外の医薬品については5年間延長、消化器官用薬や一定の生薬を有効成分として含有する鎮咳去痰薬などにも対象範囲が拡大されます。当協会の会員会社の取り扱い品目も複数対象となり、より患者様へのセルフメディケーションの推進に向けて、業界全体での連携を強化し、利便性と信頼性を高める取り組みを加速してまいります。

さて、現状、日中関係の悪化による影響が心配されますが、昨年10月には、6年ぶりに中国医薬保健品進出口商会(中国医保商会)による訪日団をお迎えしました。今回の交流の成果として、次の3点を双方で確認いたしました。

- 日漢協と中国医保商会が共同で制定したISO 国際規格に基づき、双方協力のもと「GACP 中薬材栽培基地連盟」の立ち上げ構想を検討
- 次年度の日漢協訪中において、新版中薬材GAPの承認を受けた中国の生薬栽培基地を視察
- 日本のGACP、中国の新版中薬材GAPそれぞれの普及・浸透のために意見交換の場を設定

中国医保商会との日中交流は、品質の高い原料生薬の必要量を継続的に調達するために、良好な関係を維持する重要な機会ですので、今後も引き続き実施してまいります。

また、昨年、医薬品の品質・安定供給、創薬環境、薬局機能の強化を通じ、国民に対してより安全で迅速な医薬品提供を実現することを目的とする改正薬機法が公布されました。

当協会として漢方製剤等の品質と安全性の確保を一層強化するため、会員会社に対するコンプライアンス教育を定期的に実施するなど、法令や倫理規範等を理解し実践できるように支援いたします。

今年は、「日漢協・漢方将来ビジョン 2040」の実現に向けた飛躍のスタートの年と位置づけ、万全の準備を整え、次なるステージへの挑戦を加速してまいります。

本年も当協会の活動に一層のご理解とご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

以　上